

かけはし

岩国市立錦中学校だより 第8号

令和2年(2020年) 7月28日(火)

<https://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/nishiki-j/>

7月18日(土)の有志による環境整備作業に多くの保護者の方に参加していただきありがとうございました。

無言で掃除をする大切さ

校長 秋本 泰宏



議長を務めたTちゃんとHさん

7月17日(金)6校時に生徒総会が開かれました。本年度は、3年生のM. TちゃんとK. Hさんが議長を務め、生徒会スローガン『身も心も清く』の達成をめざし、整理整頓活動や普段の清掃活動に焦点を当てた二つの議題について様々な角度から意見が出され、協議されました。

講評において、機会があれば、無言で取り組む掃除の大切さについて伝えたいと述べました。そこで、無言で取り組む掃除の大切さについて書きたいと思います。

なぜ、無言で掃除をしなければならないのでしょうか。楽しくおしゃべりをしていても、きちんと掃除をしていたら良いのではと思う人もいることだと思います。

では、「きちんと掃除をする」とはどういうことなのでしょう。

きちんと掃除をするためには、まず、そこを使う人の身になって、どこがどのように汚れているのかを考え実行します。次にどのような段取りで、どのような手段でやればきれいになるのかを考え、実行します。そして、本当にきれいになっているかを確認し、不十分であれば、さらにきれいにする方法を考え、実行しなければなりません。これが「きちんと掃除をする」ということです。

これには、かなりの注意力や集中力を必要とします。こうしたことを、決められた掃除時間の間に決められた範囲で行っていれば、自然に無言で掃除をすることになります。

私は、無言で掃除をすることが大切なのではなくて、掃除をしていて自然に無言になることが大切だと考えます。無言で掃除をしている人を見ると、きっと、この人は確実な仕事ができる信頼できる人だと思います。逆に、おしゃべりをしている人は、自分の仕事に対する注意力や集中力を他に分散してしまっている信頼できない人のような気がします。

そして、無言で掃除に取り組む姿勢は、中学校生活の間だけにとどまらず、長い生涯の中で、社会的な評価を決める大きな要素となるのではないのでしょうか。それは、誰でも、自分の大切な仕事を任せるなら、信頼できない人より信頼できる人に頼みたいと思うからです。掃除には、そうした大切なものを育ててくれる力があります。毎日の掃除の中で、繰り返し培われたものは、きっと将来の幸せに結びつくものとなるはずです。

中学時代は、自分の生き方の土台をつくり、一人前の大人に向けて成長していく時代です。無言で取り組む掃除を通して、自分の仕事に取り組む姿勢や考え方を育ててほしいと思っています。

命の始まりを学ぶ会

7月9日(木)3,4校時に3年生を対象にして「命の始まりを学ぶ会」を実施しました。例年であれば、錦保健センターへ出かけていき、乳幼児と中学生のふれあい体験を実施していますが、本年度は新型コロナウイルスの感染



起き上がるのも結構大変
(妊婦疑似体験)



服の着替えもおそろおそろ
(赤ちゃんの人形のお世話)

拡大防止のため、錦中学校で保健師さんの話を聞いたり、赤ちゃんの人形のお世話や妊婦の疑似体験をしたりしました。終了後のアンケートでは、参加者全員の評価が「とても役に立つ」「役に立つ」でした。自分も家族や周囲の支えで成長してきたことを再確認できた授業となりました。

<生徒の感想>

- ついつい自分なんてと自分を責めていたけれど、今日の話で「生まれて元気で、生きていればみんな100点」ということばを聞いて少し安心した。
- お母さんがどんな思いで自分を育ててくれたのか少しわかった。
- もっと自分を大切にしようと思った。

救命救急講習会



胸骨圧迫のコツを教え合い

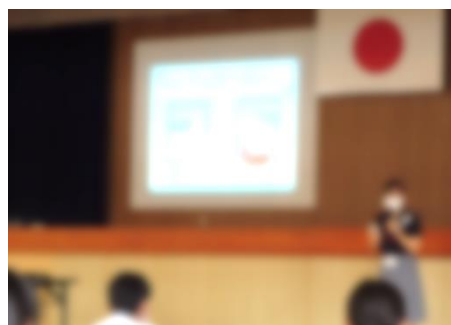
7月13日(月)2,3校時に日本赤十字社の方を講師にお招きし、心肺蘇生法について学習しました。新型コロナウイルスの感染予防のため、例年とは異なる実習となりましたが、正しい胸骨圧迫の仕方、AEDの使い方について指導していただきました。授業を受けて、生徒は、もしもの時に備えて必要な知識と技術を習得しておくことの大切さを実感したようです。また、「倒れている人を発見したら自分にできることをしたい、命を救いたい」という気持ちも高まったようでした。

情報モラル研修会

7月15日(水)に、講師の先生をお招きし、インターネットや携帯電話に関する様々なトラブル事例とその対策を研修するとともに、生徒に情報モラルの必要性や情報に対する責任を考えさせる情報モラル研修会を、全校生徒を対象に実施しました。

研修会後の講師の方との雑談の中で、今の社会では、雇用主がインスタグラムで雇用情報を発信し、その情報を見て、就職希望を申し込み、就職が決まるという会社もあるようです。一方ある雑誌によると、IT業界の大物たちは、自分の子どもに自分の会社の製品などのデジタルデバイス(スマートフォンやタブレットなど)の利用を制限しているという現実もあるようです。

研修会の終わりに3年生F. Yくんが、「今日の話聞いて個人情報わかるような投稿をすると自分の将来にかかわる可能性があることがわかった。僕はまだスマートフォンを持っていないので、今日学んだことを活用して、安全にスマートフォンを使いたいと思った」と挨拶しました。



情報モラル教室の様子